

## 注目② レストハウスの建て替えに向け

### 平成30年度平戸市一般会計補正予算(第3号)中、「(仮称)平戸観光交流センター整備事業」

(仮称)「平戸観光交流センター(レストハウス)」の建て替えに伴い、ボーリング調査、解体・新築工事設計、解体工事に伴う建物影響調査、既存建物解体工事などを実施する。

**事業費**  
4,182万4,000円

**整備の方向**  
新たな施設は、延べ床面積400㎡で木造平屋建てを予定。施設の内容は、観光客や市民などが自由に休憩できるスペース(持ち込み飲食も可)や、ボールプール・滑り台など、子どもたちが雨天時でも楽しく遊べる親子の広場、平戸のお土産を販売する物品販売スペースなどを整備予定。

## 注目③ 子どもたちがお仕事体験!

### 平成30年度平戸市一般会計補正予算(第3号)中、「わくわくドキドキ子どもジョブチャレンジ事業」

昨年度好評だった「わくわくドキドキ子どもジョブチャレンジ事業」を本年度も実施(平成31年3月予定)。地元企業、大手旅行代理店、子ども向け職業体験型テーマパークと連携し、市内外の子どもたちが市内でさまざまな職業を体験する。



【平成29年度に実施されたわくわくドキドキ子どもジョブチャレンジ事業の様子】

**事業費**  
750万円

## 注目④ 市民の命を守る医師の処遇を改善

### 平成30年度平戸市病院事業会計補正予算(第1号)

本市市立病院(平戸市民病院、生月病院)の医師の給与は、長崎県病院企業団の離島病院(五島中央病院など)および近隣民間病院の医師給与と比較すると低水準であることから、本年4月から両市立病院の管理職・医師が参加する経営検討会・管理者会の中で引き上げについて検討を重ね、9月定例会に医師手当(月額)を副院長以上の管理職は5万円、管理職以外は10万円加算する補正予算が提案された。市民の命を守る医師を確保するためには、給与改定は必要であることを認め、可決した。

【年収の比較】 (単位:円)

医師免許取得歴	長崎県病院企業団		①②の平均	平戸市民病院	①②平均との比較
	①島原病院	②五島中央病院			
3年	10,861,600	15,313,696	13,087,648	12,472,640	△615,008
6年	11,600,800	16,097,248	13,849,024	12,592,640	△1,256,384
8年	13,329,600	17,064,576	15,197,088	12,916,480	△2,280,608
12年	14,014,400	17,790,464	15,902,432	13,900,160	△2,002,272

市立病院 医師手当月額10万円加算した場合 (単位:円)

市立病院	医師手当月額10万円加算後の年収と①②平均との比較
13,672,640	584,992
13,792,640	△56,384
14,116,480	△1,080,608
15,100,160	△802,272

出典:長崎県病院企業団ホームページ

# 9月定例会 ここに注目!

9月定例会が9月3日から14日までの12日間の日程で開催されました。今回提案された平成30年度一般会計・各特別会計・各事業会計補正予算、条例の一部改正についてなど、議案20件を慎重な審議の結果、原案のとおり承認・可決・同意しました。なお、平成29年度平戸市一般会計決算認定についてなど、決算関係議案13件が決算特別委員会に付託され、9月19日から21日および25日から27日までの6日間の日程で審査を行いました。審査の内容は、12月定例会で報告します。

## 注目① ICTを教育に活用!

### 物品購入契約の締結について(平戸市ICT教育推進整備事業)

**ICT教育推進整備事業**  
児童・生徒の理解力向上を図るため、児童・生徒の実態に応じたICT教育環境の整備を図り、ICTを学びのツールとして活用することを目的に、現在、市内各小・中学校でICT機器の導入を進めている。

**契約金額**  
3,720万9,240円〔小学校費:2,060万7,156円/中学校費:1,660万2,084円〕

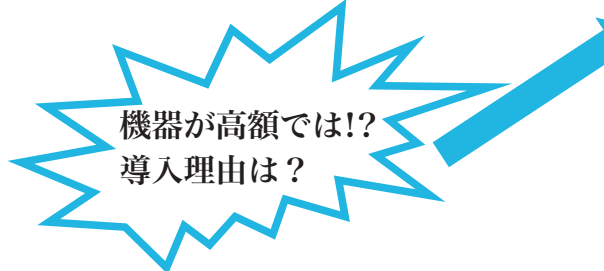
**平成30年度に導入される機器**

【小学校】	【中学校】
児童用タブレット機能付PC 67台	生徒用タブレット機能付PC 54台
授業支援ソフト 95ライセンス	授業支援ソフト 74ライセンス
その他(パソコン室用プリンタ6台など)	その他(パソコン室用プリンタ3台など)

### 児童・生徒用タブレット機能付PC1台あたりの金額

- 25万6,500円(税込)
- (本体および付属品等の内容)
- ・タブレット機能付PC
- ・21.5型ワイドディスプレイ
- ・拡張クレードル
- ※機器を設置した状態で充電やデータの転送などができる
- ・キーボード、マウス等付属品
- ・タブレットケース
- ・保守パック(5年) など

**市の回答**  
各小中学校のパソコン室に設置しているノートPCのOS(基本ソフトウェア)のサポート切れに備えるとともに、更新時期のノートPCを持ち運びができるタブレット機能付PCに順次切り替え中。新学習指導要領では、双方向の授業が求められており、授業支援ソフトを導入する必要がある。実証実験では、スペック(性能)の低い安価なタブレット機能付PCは、動画再生や双方向の通信をする際に動きが悪くなることを確認した。また、安価なタブレット機能付PCを導入した他自治体でも同様の事例が見られた。貴重な学習時間内に授業が滞ることなく、効果的な学習を実施するためにも、今回導入予定機器が必要。



委員会での審査内容は5ページをご覧ください。